追加資料１

学校規模に関するメリット・デメリットについて（「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（文科省）より）

	メリット	デメリット
小規模校	①一人一人の状況に合わせたきめ細かな指導が行いやすい。 ・学習状況や学習の定着度を的確に把握できる。 ・個別指導や補充学習時間の確保がしやすい。 ②一人一人が活躍できる機会が多くなる。 ・発表やリーダーになる機会が多くなる。 ③異年齢交流が組みやすい。 ・体験的な学習や校外活動等 ④施設や備品を余裕をもって使うことができる。 ・運動場や体育館、特別教室、ICT機器等 ⑤保護者や地域との連携が取りやすい。 ・郷土学習、コミュニティスクール等	①クラス替えが全部または一部の学年でできないため、児童生徒の人間関係や相互評価が固定化しやすい。 ②お互いに切磋琢磨する教育活動、社会性やコミュニケーション能力を養う教育活動がしにくい。 ・班活動やグループ分けに制約が生まれる。 ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏等の集団学習に制約が生まれる。 ・運動会・文化祭等の集団活動・行事の教育効果が下がる可能性が高い。 ③中学校において部活動の種類が限定されたり、免許外指導の教科が生じる等の課題がある。 ④バランスのとれた教職員配置やティーム・ティーチング、専科指導等の多様な指導方法の工夫が困難となる。 ・経験年数、専門性、男女比等のバランス等 ⑤教職員一人一人の校務負担や行事に関わる負担が重くなり、研修や会議の時間が十分とりにくくなる。
大規模校	①児童生徒相互のふれあい等の機会が多く、社会性や協調性が育成しやすい。 ②集団の中で切磋琢磨する機会が多くなる。 ③運動会等の学校行事が活発になりやすい。 ④教職員数が多く、多くの先生と接する機会に恵まれる。 ⑤調和のとれた校務分掌が確立でき、教職員一人一人の負担が緩和される。	①児童生徒一人一人が主体的に活躍する場や機会が少なくなる場合がある。 ②異学年交流の機会が設定しにくくなる。 ③同学年でもお互いの顔と名前を知らない等、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある。 ④25学級を超えるような規模になった場合、児童生徒1人当たりの校舎や運動場面積等が相対的に狭くなり、学校運営上の難しさがある。 ⑤教職員が十分な共通理解を図ったりする上で困難が生じる場合がある。